

# 研究協力のお願

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

投球側の違いによる肘の負担の差について～肘関節外反ストレスに着目して～

## 1. 研究の対象および研究対象期間

以下の研究に参加し、将来の別の研究に研究データを使用することに同意をいただいた方

噛みしめの有無が投球動作に与える影響（承認番号：F2019C108）

実施期間：2022年8月15日～2022年9月4日

実施施設：藤が丘リハビリテーション病院

## 2. 研究目的・方法

投球動作を継続的に繰り返し行っていると、投球側の上腕骨に存在する捻じれ角が非投球側に比べて増大すると報告されています。この投球側における上腕骨の捻じれの増大は右投げの選手の方が生じやすく、左投げの選手の方が上腕骨の捻じれが小さい傾向であると言われています。上腕骨の捻じれと投球側肩関節の後方の硬さには関連性があります。投球側後方の硬さがあると上腕骨の捻じれが増大し、投球側肩障害が生じやすいと言われています。このように、投球側の違いにより身体機能的な差が生じるのであれば、肩関節だけでなく肘関節に生じる力学的負荷にも差が生じる可能性があります。しかし、投球側の違いによる、肘関節にかかる力学的負荷についての検討はされていません。

以上から、本研究では投球側の違いによる肘関節にかかる力学的負荷を比較し、投球側の違いによる投球障害の発生要因を検討することを目的としました。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2025年3月31日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

- 基本問診情報（年齢、身長、体重、性別、スポーツ歴、利き手、ポジション、障害歴）
- 理学療法評価（角度計、エコー、投球解析ウェアラブルデバイス、筋力測定器使用）

関節可動域：肩関節

筋力測定：Zero 外旋筋力/Zero リリース筋力

## 5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

## 6. 研究組織

役割	所属名	職種	役職	氏名
----	-----	----	----	----

研究責任者	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	理学療法士		宇野智紀
研究分担者	昭和大学北部病院	理学療法士		久保龍紀
	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 昭和大学スポーツ運動科学研究所	理学療法士	講師	田村将希
	昭和大学スポーツ運動科学研究所 昭和大学保健医療学研究科 昭和大学藤が丘病院整形外科	医師	教授	西中直也

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 氏名：宇野智紀

住所：〒227-0043 神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1-1 電話番号：045-974-3665